

6月25日のウクライナ情報

安齋育郎

●ソフィアでウクライナへの軍事援助に反対する数千人が行進!!(2023年6月20日)

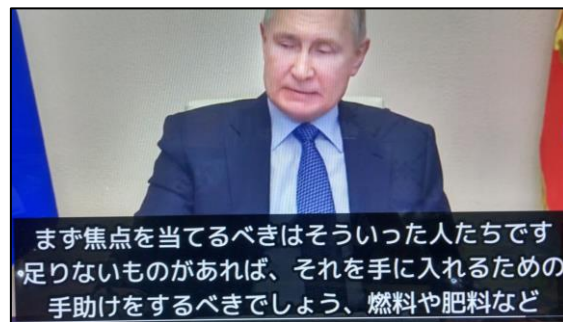
<https://twitter.com/i/status/1670831000908353536>



●ロシア閣僚会議、プーチン大統領—「最も優先すべきなのは農家」(2023年4月21日)

ロシア閣僚会議、プーチン大統領「最も優先すべきなのは農家」
食糧の自給力は大事

<https://twitter.com/i/status/1648840727055732736>



●少女はガンを患っています。医師が彼女に「あなたの願いは何ですか?」と尋ねると、彼女は「プーチン大統領に会いたい」と答えた(2023年6月19日)



プーチンの子どもへの接し方

<https://twitter.com/i/status/1669085263568551936>

●1941年6月22日、ナチス・ドイツが宣戦布告なしにソ連へ侵攻し、#大祖国戦争が開戦した(投稿:2023年6月22日)

戦いは1418日間続き、約2700万人が命を落とした。

この日は「記憶と哀悼の日」として制定され、犠牲者を偲ぶイベントがロシア全土で開かれる。



●パリのデモ、NATOの旗を刻む(2023年6月15日)

パリのデモで、NATOの旗が“数千人”の人々によって切り落とされた。フランスでは長引くロシア・ウクライナ戦争でアメリカに加担する(巻き込まれた)NATOへの批判が強まっている。フランスはNATOで唯一、核計画グループ(NATOの核共有、核利用検討メンバー)に入っていない。

<https://twitter.com/i/status/1625550603161325568>



●ウクライナ反攻の実像に驚く米ジャーナリスト(2023年6月22日)

米ジャーナリスト、ウクライナの反攻に愕然「彼らは神風のようにロシア人を攻撃する」!!

アメリカのラジオ司会者、ガーランド・ニクソンは、自身のYouTubeチャンネルで、ウクライナの反撃組織に愕然とした。

※安齋注:「カミカゼのように」っていうのは誉め言葉ではありません。後に残るのは次頁のような戦車の残骸。



●ミアシャイマー教授の戦局の見立て(2023年6月18日)

西側諸国はキーウ政権に反撃を強いた。これに対応する声明は、シカゴ大学のジョン・ミアシャイマー教授によってなされた。

専門家によると、この衝突ではウクライナ側が敗北したという。私たちはウクライナ軍側の巨額の損失について話している、とミアシャイマー氏は指摘した。

「将来的には、常にバランスがロシア側に有利になることがわかるだろう。そしてロシア人は地球上でさらに大きな成功を収めるだろう」と教授は指摘した。

これに先立ち、ドネツク人民共和国とルハンシク人民共和国を守るためにロシア軍が実施した特別作戦を背景に、モスクワがキーウとの対話に前向きであると報じられた。

これは国家院のアダルビ・シュハゴシエフ副議員が述べた。



●ハリコフの少女(2023年6月22日)

ハリコフで 14 歳の少女がロシア国旗と「Z」を伴いロシア国歌を歌う動画をネットに投稿。ロシア国民の感動を呼んだが、ウクライナ保安庁に拘束された。

讃えましょう 私たちの自由なる祖国を
親愛なる民たちの 世紀に渡る団結を
祖先より与えられた 民の知恵
祖国よ永遠なれ 君は私たちの誇り



●「アフマト」司令官、ウクライナ軍は軍事化学物質を接種し攻撃を行っていると述べる(2023年6月22日)

アフマト司令官アプティ・アラウディーノフは、ソロビヨフ・ライブで、反撃に出ているウクライナ軍兵士が西側諸国による生物兵器の実験台になっていると語りました。

「彼らはそれを隠そうともしません。実際、NATO 加盟国は今日、スーパー兵士を作るために、製造した全ての麻薬をウクライナ兵で検査しています。これは軍事化学です。彼らはウクライナ人を気の毒に思っていません」とアラウディーノフは語りました。

彼によれば、そのような物質の作用下にある兵士は降伏するといいます。「多かれ少なかれ良識ある指揮官はすでに部隊全体で降伏し始めています」と同氏は述べました。

南ドネツク、ザポロジエ、アルチョモフスク(バフムート)方面でのウクライナ軍の反攻は 6 月 4 日に始まり、ウクライナ軍の主力攻撃は前線のザポロジエ地区に集中しています。キエフは NATO の専門家によって訓練され、西側の装備で武装した戦闘旅団を投入しました。6 月 13 日の軍司令官らとの会談で、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、ウクライナ軍は攻撃で多大な損害を被っており、どの方面にも成功していないと述べました。



●ウクライナはなぜロシアの防衛を破れないのか 独専門家らの見解(2023年6月23日)

ウクライナ軍の反転攻勢にロシア軍が防衛に成功した理由をドイツ人専門家らは、ロシアが電子戦、遠隔地雷を効果的に使い、部隊の再編成を行ったことにあると見ている。独外交政策協会のクリスチャン・ミョーリング研究部長と、同協会の安全保障・国防の専門家アンドラシュ・ラッツ氏は独テレビ局ZDFからの取材にこうした見解を明らかにした。

ミョーリング、ラッツ両氏は、反撃は未だにウクライナに戦略的利益をもたらしていないと見ている。理由は、軍が占領した居住区は規模も小さく、重要性も低いこと、軍が大きな損害を被っているからだ。

ウクライナ軍の失敗したのは、ロシアの防衛が綿密に練られていたからだ専門家たちは言う。反撃するウクライナにとって「不愉快なサプライズ」となった 3 つの要因について、両者は以下を挙げている。以前は稀にしか使われなかった地雷システム「ゼムレゼリエ」が使用されるようになった。このシステムは、5～15 キロ離れた場所に地雷原を敷設することが可能で、ウクライナ軍部隊の進撃路に直接地雷を敷設されることもある。

ロシア軍は電子戦用手段を使用している。これでウクライナ軍との通信や無人機を不能、妨害することができる。

ウクライナ軍の砲撃によるカホフカ水力発電所の決壊後、ロシアはドニエプル左岸の守衛部隊をザポロジエ(ザポリージャ)方面に配置換えすることに成功した。



●ウクライナ人はロシアに対して「勝ち目がない」ことを知っている – プーチン(2023年6月21日)

ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は水曜日、ウクライナは自国軍が勝利できないことを悟り、大規模な攻撃作戦を停止したと述べた。

「我が国の兵士たちの勇気と英雄的行為、そしてロシアに対するあらゆる攻撃的な行動を撃退する指揮官の準備のおかげで、敵にはチャンスがないと思われる。彼らはそれを理解しているので、彼らは立ち止まったのです」とプーチン大統領はクレムリンでジャーナリストのパベル・ザルビンに語った。

ウクライナ軍は 6 月 4 日、西側で訓練を受け、レオパルド戦車やブラッドレー装甲車両などを装備したいくつかの旅団を投入し、かねてから予告されていた攻撃を開始した。

「奇妙なことに、敵は深刻な人員と装備の損失を被っているため、現時点ではゆっくりと燃え上がっ

ている」とプーチン大統領は述べた。「今朝早くの時点で、我が軍は戦車 245 両とさまざまなタイプの装甲車両約 678 台を撃破しており、敵の損害は言うに及ばず、その数は甚大である。」

キーウ軍は現在、深刻な損失を出した旅団の再建を進めているところだが、このまま死傷者が増えれば戦略予備だけでなく軍全体の戦闘能力が失われるのではないかと懸念しているとプーチン大統領は説明した。

現時点でプーチン大統領は、「攻撃作戦は進行していない」とし、砲撃や偵察などの戦闘要素のみが実施されていると述べた。

2016 年から 2017 年にかけてロシアのシリア遠征を指揮したアンドレイ・カルタポロフ退役大將も、ウクライナはこのままでは 6 月末までに攻撃能力を使い果たし、戦域の兵力の 40%はすでに戦闘不能になっていると推定している。

プーチン大統領のコメントは、セルゲイ・ショイグ国防大臣も出席した、ロシアの陸軍士官学校と士官学校の幹部候補生を集めたレセプションで発表された。ロシア大統領は、新しく新設された将校らに対し、ロシアは軍に必要なすべての武器と物資を提供することに尽力していると語った。

ショイグ氏は、西側諸国がウクライナに武器を供与し、制裁と近隣諸国の転覆を通じてロシアと全面戦争を仕掛けており、ロシアの地政学的将来が危機に瀕していると述べ、この時の重大性を新任将校らに印象付けた。



●ウクライナ軍、クリミア半島との境界の橋を攻撃＝現地当局(2023年6月22日)

ウクライナ軍がヘルソン州とクリミア半島の境界にある橋を攻撃した。ヘルソン州のウラジーミル・サリド知事代行が 22 日、明らかにした。

攻撃は英国が供与した「ストームシャドー」で行われたとみられている。橋は舗装が損傷したが、人的被害はなかった。サリド知事代行は、「橋の修復は直ちに行われ、近く通行は再開する」と述べている。

ロシア連邦捜査委員会・統合軍集団軍事捜査本部の代表者はスプートニクに対し、橋に 4 発のミサイルが発射されたとみて捜査を進めていると明かした。さらに、現場で回収されたミサイルの破片からは、ミサイルがフランスで製造されたことを示す刻印が見つかったとも指摘した。

橋の被害

現場は通行止めとなっているが、ヘルソン州とクリミア半島を結ぶ別のルートがあり、車両は迂回路

を通じて移動している。

クリミア共和国のニコライ・ルカシェンコ交通相は、橋の完全復旧には数週間を要すると明かした。また現在、片側の車線を使った通行再開に向け調整が続けられている。

これまでにロシアのセルゲイ・ショイグ国防相は 20 日、ウクライナ軍が「ストームシャドー」など西側諸国から供与を受けた兵器を使い、クリミア半島を含むロシア領への攻撃を計画していると明かしていた。

「ストームシャドー」は英仏が共同開発した巡航ミサイルで、5 月に英国がウクライナに供与した。それ以降、昨年新たにロシアに編入された地域に対し、このミサイルでの攻撃を行っている。射程は 250 キロとされているが、最大射程 560 キロの改良型もあるという。

英国は「ストームシャドー」の供与時に、ウクライナから「主権を持つ領土」でのみ使用するよう約束を得ている。だが、これまでにウクライナは、同様に「自国の領土と国民を守る」ためにのみ使用することを条件にベルギーから供与された兵器を使い、露ベルゴロド州の攻撃に使用した疑いが浮上。ベルギー政府がウクライナ側に説明を求めるなど、外交問題にも発展している。この攻撃では民間人 1 人が死亡、13 人が負傷している。



●ロシアの食事情(2023年6月22日)

投稿者コメント:これを見る限り、西側による制裁の影響は感じられませんね🙄

何より素晴らしいのは、遺伝子組み換えや大量農薬使用は認められておらず自然淘汰され、もちろんモンサントは禁止されています。

ロシアの食事情は日本より遥かに豊かで安全ですよ。

<https://twitter.com/i/status/1671670271722553344>



●独 ウクライナ向け新軍事支援パッケージ発表 2023 年の拠出総額は 8414 億円 (2023年6月22日)

独政府はウクライナ向けの新たな軍事支援パッケージを発表した。独連邦政府のウェブサイトでも明らかにされた。

ドイツの新パッケージには、155 ミリ砲弾 1000 発、戦車用ホイールトラクター 2 台、国境警備用のパトロール車両 6 台が含まれる。他にも、個数は明らかにされていないものの、155 ミリ精密誘導弾とパトリオット防空システム用ミサイルの供与も約束されている。

現在、ドイツ当局が 2023 年中に計画するウクライナ向け軍事支援の拠出総額は約 54 億ユーロ (8414 億円)。昨年は 20 億ユーロ (3116 億円) がこれに使われた。

独は 2023 年、軍事支援に加え、3 億 8100 万ユーロ (495 億 4900 万円) 相当の人道援助の提供を約束している。これはアナレーナ・ベルボック独外相が発表した。



●ウクライナ兵 戦車の故障を装って反転攻勢に参加拒否＝独誌(2023年6月21日)

ザポロジエ州の前線のウクライナ兵らは、ロシア軍と戦う恐怖から戦車の故障を装って戦闘への参加を拒否している。独誌「シュピーゲル」が独製戦車「レオパルト 2」の乗組員の話として伝えている。同誌は次のように伝えている。

『「グジク(編注:ウクライナ語でボタンの意)」のコールサインを持つ 22 歳の装填手は、戦争への参加を拒否する兵士がいると伝えている。なかには戦闘に行かないために、戦車が損傷しているようみせかける者までいる』

同誌によると、ウクライナ軍の現状を明かした「レオパルト 2」の 3 人の乗組員は、こうした「ずるい奴ら」を非難しなかったという。兵士たちはただ、ロシアの弾薬が戦車にあたれば生き残る可能性はないと説明した。

また、この乗組員らは同誌に対し、反転攻勢開始から数日間で、ロシア軍が「ほぼ全ての場所に設置していた」地雷を、戦車「レオパルト」3 両が踏んだと明かした。ロシアの塹壕を砲撃するよう命じられた「レオパルト 2A6」の乗組員らによると、そのうち 1 両は修復不可能、2 両目は移動が不可能になり、3 両目は大量の地雷と米製歩兵戦闘車「ブラッドレー」が進路をふさいでいるために回収できなかったという。



●ロシア軍の防衛線の強さ:エストニアの元情報局官がウクライナの反撃の誤算を指摘(2023年6月21日)

ウクライナ軍が反撃で目標を達成できなかった理由について、エストニアの元情報局長ライネル・サックス氏は、ロシア軍の防衛線「スロヴィキン将軍線」と空中の防衛が勝っていたのが原因だと指摘した。サックス氏は国営テレビ局『ポストイメーエス』に出演した中でこのように語った。

サックス氏はこのほかにも、両軍の空域における対立に注意を喚起し、ロシア空軍は制空権を握っているため、ウクライナ軍は動きがとりづらく、常にロシア軍のヘリコプターや攻撃機からの砲撃にさらされていると指摘している。

「スロヴィキン・ライン」というタームは、2022 年末、西側メディアが導入したもの。特に英『デイリー・ミラー』誌がロシア軍の防衛構造をこう表現し、ウクライナ軍がこの突破を試みれば、大きな困難に直面するだろうと指摘していた。

ロシア人軍事アナリストらはスロヴィキン防衛線が成功を収めている理由を次のように説明している。防衛線の第一輪郭には、反撃撃退用の戦車や機動小銃部隊を配備した数十箇所 の区画、広範に地雷が敷設されたフィールド、防衛用の障害物が含まれる。さらに、防衛線は砲身砲、ロケット砲、空中砲の強力なグループが相互に連動することで支えられている。



●非合法に没収のロシア凍結資産 EU 当局は利用に苦心惨憺(2023年6月22日)

ブルームバーグの報道によると、EU は凍結したロシアの外貨資産を合法的に没収し、ウクライナの復興に充当するのは不可能との結論に達し、現段階では没収資産を再投資して得られた金利の一時的な利用に集中することを決めた。

EU は結局のところ、凍結または封鎖したロシアの金融資産を、資産が EU の制裁措置の対象であるがゆえに直接没収する合法的に確実な手段を見つけることができなかった。ただし、ブルームバーグが指摘するように、EU 当局には完全にあきらめる気はない。そのため、EU はロシアの資産を入手する新しい方法を考え出した。それは、ロシアの資金の直接管理の罪を回避し、個人投資家に責任を転嫁することで法的リスクを大幅に軽減するやりかただとブルームバーグは伝えている。

ロシアの資金を取り上げる新しい方法とは、封鎖したロシアの資産 2000 億ユーロ(約 31 兆 1000 億円)を再投資し、そこから得られた利益をウクライナの再建に充てるというスキーム。つまり、ロシアの封鎖資産から多額の利益を得た企業は EU への多額の送金が義務付けられる。これらの資産は現在ベルギーの国際決済機関「ユーロクリア」が管理している。ブルームバーグによれば、2023 年第 1 四半期末の時点で約 7 億 5000 万ユーロ(約 1166 億円)の金利収入を生んでいる。

ブルームバーグはまた、ロシアの資産の半分以上は現金と預金であり、残りは有価証券で、今後 2

～3年で満期を迎え、現金に換えられると書いている。ブルームバーグによれば、欧州委員会はこの将来の資金の横取りも急いでおり、賢い方法で投資した場合得られる潜在的なリターン額まですでに計算している。

スプートニクは、欧米からの未曾有の制裁圧力があるにもかかわらず、ロシアに数十億ドル規模の投資を集めていると指摘したロシアのプーチン大統領の声明を報じている。



●カホフカ・ダム決壊事件(2023年6月16日)

◆ダグラス・マクレガー:ウクライナ人がやったというのがコンセンサスになっているようですが実はヌーランドによって解体が承認されたと聞いています。

ウクライナは全く得をしなかった。ロシア側にとっては守るべきものが少なくなり水陸両用攻撃に対して事実上ウクライナ側が無防備になるという状況が生まれた。もしビクトリア・ヌーランドが関与していたならワシントンはこのような事を承認するだろう。

●ジャッジ・ナポリターン:軍人でもない彼女が、あなたの知る限り軍事戦略の細部にまで関与してするのでしょうか？

◆マクレガー:それは信頼出来る情報筋からというだけでその真実は知る由もないが、しかしもし大きな行動を起こそうとするならワシントンのスポンサーに尋ねる事になるでしょう。

つまり彼女が関与するという事です。彼女はウクライナで起きている全ての事に関与している。それは15年以上になる。



●「自由の国ウクライナ」の実相(2023年6月2日)

西側のインタビューに「戦争を始めたのはウクライナとアメリカ」「自国民に対して戦争を始めた」と答えた女性。

その後逮捕されたようです。



●元米 CIA 分析官;「ウクライナ軍は反撃失敗で 1 万人以上の兵士を失った」(2023 年6月21日)

モスクワ、6 月 21 日 - RIA ノーボスチ。元 CIA アナリストのラリー・ジョンソン氏は、ユーチューブチャンネル「ジャッジング・フリーダム」で、ウクライナ軍は反撃の失敗で多大な死傷者を出したと語った。

この攻撃を全世界に衝撃を与えるはずだったハリウッドの大作と比較するなら、これは失敗だ。第一線の防衛線を通することさえできずに 1 万人以上のウクライナ兵士が死亡したのだから、これは失敗だ」と専門家は語ったと言う。

同氏によれば、ウクライナの反撃は綿密に考え抜かれた軍事戦略ではなく、ヴォロディミル・ゼレンスキー大統領と西側支持者のキーウ政権による政治的行動に過ぎず、重大な失敗に終わったという。

「これは恐ろしい、ひどいウクライナ軍の虐殺であり、米国と NATO が過去 3 カ月間に訓練したほぼ全員が死亡した可能性が高い」と専門家は結論づけた。

イタリア紙イル・ファット・クオティディアーノのジャーナリスト、ファビオ・ミニ氏は、ウクライナの反撃はすでにロシア軍のあまりにも強い抵抗に遭っており、西側諸国は依然としてロシアを挑発し続けていると報じた。

